



さいたま 来ぶらり通信



さいたま市図書館報

2015年11月15日発行

Contents

わがまち Sai 発見.....1,2
中央図書館の来館者数1000万人突破本棚ぶらり 大人も楽しめる絵本の世界.....3
美園図書館の開館 ほか.....4

わがまち

はっけん

Sai 発見

みその 浦和美園の歴史 探訪

宿場町からたどる歴史



浦和美園には、埼玉高速鉄道線の終着駅、浦和美園駅があります。土地区画整理事業が進められ「みそのウイングシティ」の玄関駅として開業しました。また、2002ワールドカップの試合会場となった埼玉スタジアム2002が、2020年東京オリンピックでの競技会場として使用が予定されており、駅周辺は著しい発展を見せています。来年2016年1月に市内25館目となる美園図書館が開館することもあり、今回はそんな浦和美園の歴史を探りました。

日光御成道

浦和美園駅西口を南下すると街道にたどり着きます。徳川歴代将軍が家康を祀った日光東照宮への社参の際、使用したことから日光御成道と呼ばれた道です。本郷追分（東京都文京区）で中山道から分岐し、岩淵宿（東京都北区）→川口宿（川口市）→鳩ヶ谷宿（鳩ヶ谷市）→大門宿（さいたま市緑区）→岩槻宿（さいたま市岩槻区）→幸手宿（幸手市）で日光街道に合流します。江戸・岩槻間は、岩槻藩の参勤交代の経路となっていたところから「岩槻街道」とも呼ばれていました。

大門宿

大門宿は日光御成道の4つ目の宿場町です。本陣表門は現存しており県指定文化財になっています。茅葺の長屋門で、正面中央の板扉の右側には、番所が設けられています。元禄7年（1694）に建立され、文政7年（1824）に修理されました。江戸時代は名主役の会田家が本陣を勤め、現在でもここは会田家が所有しています。脇本陣表門は本陣表門のはず向かいにあります。安永5年（1776）に建立されたもので、本陣表門に比べると番所が無く、また窓も小さなものです。こちらは市指定有形文化財となっています。

美園村

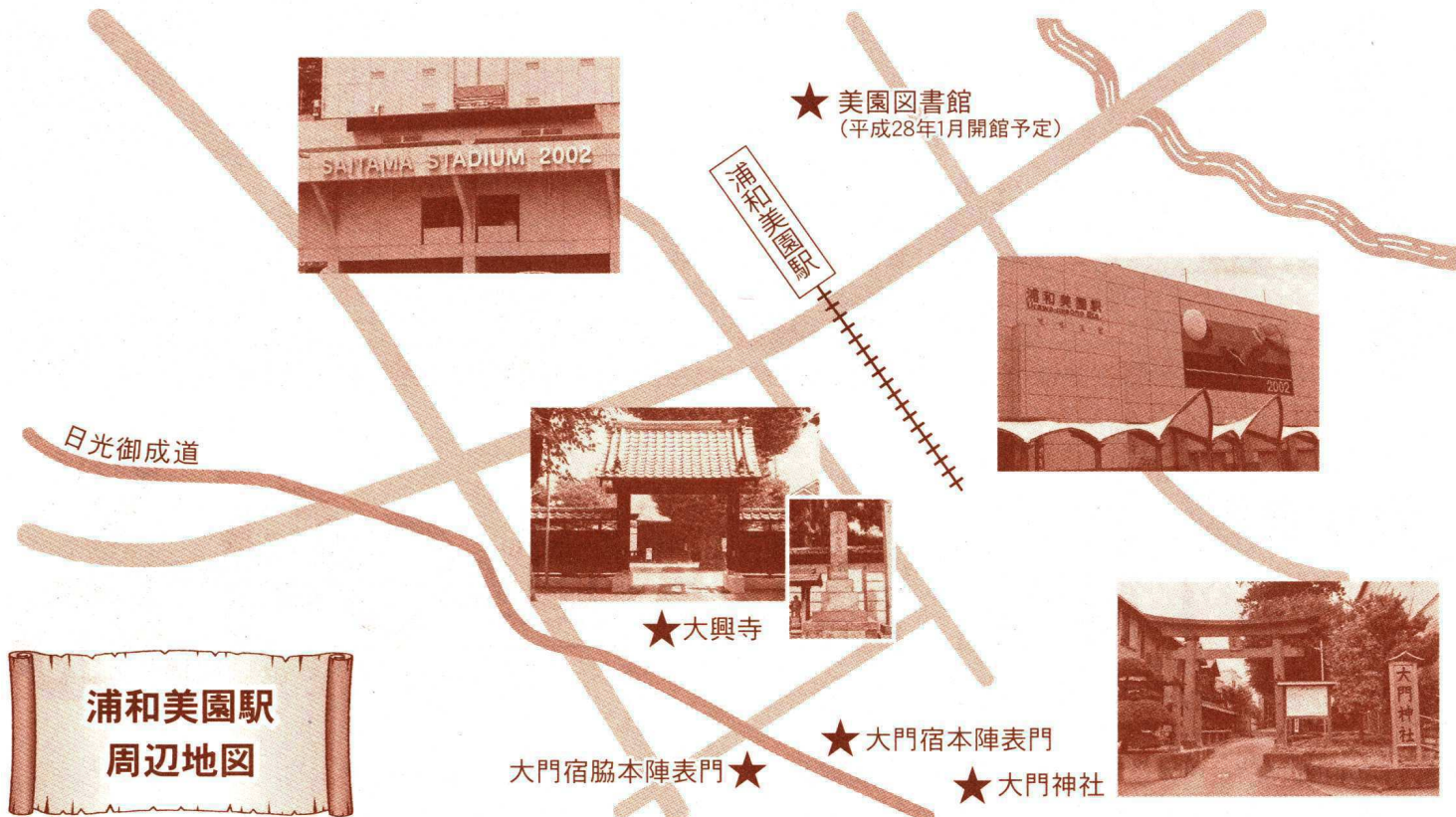
かつて大門宿があった地域は明治の大合併により大門村となりました。その後昭和の大合併で昭和31年（1956）に野田村・大門村・戸塚村の三つが合併して美園村が生まれました。村名は3村の「三」を美化する意味の「美」と、村域が丘・野・林など植物公園的な要素を有したことにちなむ「園」を合わせたものでした。昭和37年（1962）には廃止されて野田村、大門村の両区域は浦和市に、戸塚村は川口市に編入され、住所から「美園」という名称は消滅しました。わずか6年で廃止された村でしたが、その名前は地域の人々に親しまれ、今でも駅や地域の名称に冠されています。



▲大名など身分の高い人が宿泊した本陣の表門（上）と、本陣の予備として使用された脇本陣の表門（右）※写真はさいたま市ホームページから



浦和美園駅 周辺地図

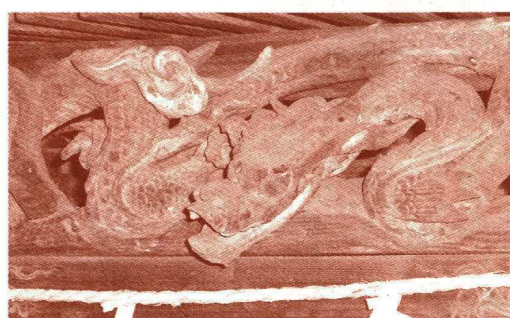


だいこうじ 大興寺

大興寺は大門宿の北の外れに位置していたとされています。天正19年(1591)に徳川家康から寺領30石の寄進を受けている真言宗智山派の古刹で、三つ葉葵の紋の山門をくぐると、左手に市指定有形文化財で文化14年(1817)銘の「徳本上人念仏供養塔」があります。墓所には大門宿本陣・会田家歴代の墓があります。

あたごしゃ 大門神社・愛宕社

大門宿本陣表門から南下すると赤い鳥居が見えます。大門神社の入口です。鳥居の近くには力石が並んでおり、重さや持ち上げた人の名前が刻まれています。境内にある愛宕社は、大門宿で大きな火災があった際に火除けを願って建てられたもので、明治に現在の場所に移されました。愛宕社本殿にある竜の彫刻は左甚五郎の作とされ、「釘付けの竜」伝説が伝えられています。



◀愛宕社の
釘付けの竜

★美園図書館
(平成28年1月開館予定)

美園図書館



★大興寺



大門宿脇本陣表門★

★大門宿本陣表門

★大門神社



「釘付けの竜」の伝説

その昔、愛宕社の産下に池があり、その池に竜が棲んでいました。その竜が付近の田んぼに現れると、決まって大洪水が起こり、村人は難儀しました。毎年、お供えをしても効き目がなく、困り果てていたところに、たまたま、日光へ向かう左甚五郎がこの話を聞き、竜の彫刻を彫り、これを愛宕社の向拝に取り付け、頭・胴・尾に五寸釘を打ち込みました。それ以来、池の竜は出ることもなく、洪水の難を逃れることができたといわれています。

(『緑区お宝100選ガイドブック』より)

平成28年(2016)1月4日には、美園図書館が浦和美園駅東口に隣接する複合施設の中に開館予定です。詳細は4頁の記事をご覧ください。お近くにお越しの際にはぜひお立ち寄りください。

主な参考文献(図書館で所蔵しています)

- ・『埼玉県地名誌一名義の研究一』 荻塚 一三郎/著 北辰図書 1977
- ・『切絵図・現代図で歩くもち歩き江戸東京散歩』 人文社 2003
- ・『日光御成道大門宿 浦和歴史文化叢書⑩』 浦和市郷土文化会 1995
- ・『緑区お宝100選ガイドブック』 緑区コミュニティ課 2014
- ・『文化財の調査 第11集』 浦和市教育委員会/編 1985
- ・『浦和の文化財』 浦和市教育委員会/編 1986
- ・『浦和の古建築』 浦和市教育委員会/編 1999

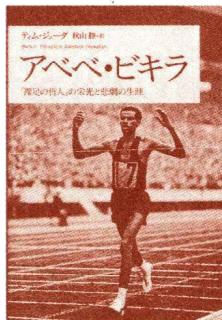
本棚 ぶらり

マラソン

平成27年11月15日(日)さいたま市内を中心としたコースで、さいたま国際マラソンが開催されます。国内外の招待選手も含めた女子エリートランナーが出場する「日本代表チャレンジの部」は、2016年リオデジャネイロオリンピックの女子マラソン代表選考競技会でもあります。そこで、今号ではマラソンに関する本を3冊ご紹介します。

『BORN TO RUN 走るために生まれた ウルトラランナー vs 人類最強の「走る民族」』(クリストファー・マクドゥーガル/著 日本放送出版協会 2010)は、マラソンを愛する著者が抱いたひとつの疑問から始まります。「なぜ僕の脚は走ると痛むのか？」その答えを探すなかで、著者は“世界でもっとも偉大な長距離ランナー”、タラウマラ族に行きつきます。また、ヘルシンキオリンピックの5000m・10000m・マラソンで金メダルを獲得し、史上唯一の長距離三冠を達成したザトペックのエピソードも感動的です。この本を読了すると走らぬにはいられなくなるでしょう。

『アベベ・ビキラ 「裸足の哲人」の栄光と悲劇の生涯』



『アベベ・ビキラ
「裸足の哲人」の栄光と
悲劇の生涯』

(ティム・ジューダ/著
草思社 2011)

(ティム・ジューダ/著 草思社 2011)は、ローマオリンピックと東京オリンピックのマラソンで優勝したアベベの栄光と悲劇を描いた作品です。コーチであるスウェーデン人ニスカネンとの関係を軸にして、生身のアベベに触れています。アベベは、史上初めて、オリンピックのマラソンを連覇しましたが、悲劇的な事故により再起不能の車椅子の人となります。弱点や内面の苦悩を、著者の冷静な筆で浮き彫りにしています。

『マラソンと日本人』(武田薫/著 朝日新聞出版 2014)は、日本人にとってマラソンとは何かを考察しながら、日本のマラソン史を振り返っていきます。東京オリンピックで銅メダルを獲得したのち自死した円谷幸吉、史上最強のランナーと言われる瀬古利彦、公務員ランナー川内優輝など、日本のマラソンを世界へ導くランナーたちは何を想って走るのかを、丁寧な取材を通じて著しています。

深まる秋は読書・スポーツに最適です。冬にはマラソン大会が多く開かれます。今年はマラソンにトライしてみたいかがでしょう？

大人も楽しめる



絵本の世界

第11回



『ぼくからみると』

たかぎ じんざぶろう / 文 かたやま けん / 絵
高木 仁三郎/文 片山 健/絵
のら書店 (2014)

今回は、どこか妖しげな魔術のような絵本を紡ぎだす、片山健の作品を取り上げます。彼の描く子どもの顔は、画家・岸田劉生の「麗子像」のような「きりっ」とした眉が

印象的で、一目でこの人の作品と分かる大きな特徴となっています。「コッコさん」が登場する絵本(すべて福音館書店刊)のように、内気な子どもの姿を描いた優れた作品が数多くあり、日本を代表する絵本作家の一人です。

妖しげでナンセンス、でも非常に魅力的な作品の代表格が、『どんどん どんどん』(文研出版 1984)、『おなかのすくさんぼ』(福音館書店 1981)、『きつねのテスト』(小沢正/作 ビリケン出版 1980) だとしたら、今回紹介する『ぼくからみると』は、それとは正反対の正統派芸術家・片山健の力量が発揮された作品です。かつて「かがくのとも」の一冊だったこの絵本は、夏の昼すぎのひょうたん池の豊かな自然を、様々な視点から描いた異色作でした。しかし残念ながら当時の製版技術では、油絵で描かれた原画の質感が再現しきれませんでした。

そんな絵本の新版が昨年のら書店から出版され、手に取って見て本当にビックリしました。新たに描きおろされた装画も見事でしたが、今の技術で製版されたことで、油絵の具の鮮やかな色彩とダイナミックな筆づかいが再現された傑作絵本に生まれ変わっていたからです。定番絵本の新版が出たときは、是非旧版と新版を見比べてみて下さい。うれしい発見が、あなたにもきっとあるはずだから……。

中央図書館の来館者数が

1000万人を突破しました!

平成27年7月5日午後1時15分に、中央図書館の来館者数が1000万人に到達し、同日、館内で記念セレモニーを開催しました。

1000万人目の来館者と認定されたのは、市内にお住まいの塚原康司さんです。

記念セレモニーでは、くすだま割りの後、教育長より塚原さんへ認定証や記念品、花束が贈呈されました。また、お祝いにつけつけたさいたま市PRキャラクターのヌウや、さいたま市図書館マスコットキャラクターのとしよ丸・としよ子と一緒に記念撮影を行いました。ヌウやとしよ丸・としよ子はセレモニーが終わった後、観覧の方への記念品の配布や写真撮影も手伝ってくれました。

ご家族で来館された塚原さんは「家族が本好きなので、中央図書館はよく利用しています。こんなに早く1000万人に到達したんですね。」と話されました。

平成19年11月29日の開館から約7年7か月での達成でした。1日平均約4000人の方が来館されたこととなります。これも、ご利用いただいている皆様のおかげです。今後とも、さらに図書館サービスの充実に努め、皆様のご来館をお待ちしています。



美園図書館が開館します

平成28年1月4日(月)、浦和美園駅の東口にできる複合公共施設の2階に、「さいたま市立美園図書館」がオープンします。

浦和美園駅周辺は、大きなマンションやショッピングモールができるなど、人口の増加が著しい地区です。

いままでは移動図書館が巡回しご利用いただいていましたが、このたび新しく美園図書館を開館いたします。



広さ約600㎡、所蔵冊数約6万冊のコンパクトな図書館ではありますが、地域の皆さまに親しまれる図書館を目指します。どうぞご利用下さい。

美園図書館

平成28年1月4日
開館予定

*通常1月4日及び月曜日は休館日ですが、複合公共施設のオープンにあわせて開館します。

〒336-0962 さいたま市緑区大字下野田655
浦和美園駅東口駅前複合公共施設内2階

開館時間

火~金……………9時~20時
土日祝……………9時~18時

休館日

毎週月曜日
*国民の祝日・休日は開館し、翌々日(水曜日)に休館
12月29日~1月4日、特別整理期間

美園図書館

さいたま市浦和美園駅東口
駅前複合公共施設2階



編集：さいたま来ぶらり通信編集委員会 発行：さいたま市図書館

<http://www.lib.city.saitama.jp/> 携帯電話用 <http://www.lib.city.saitama.jp/m/> (下のQRコードを読み込んでください)

北浦和図書館 832-2321	三橋分館 625-4319	与野南図書館 855-3735	大久保東分館 853-7100
東浦和図書館 875-9977	春野図書館 687-8301	西分館 854-8636	北図書館 669-6111
大宮図書館 643-3701	大宮東図書館 688-1434	岩槻図書館 757-2523	宮原図書館 662-5401
桜木図書館 649-5871	七里図書館 682-3248	岩槻駅東口図書館 758-3200	武蔵浦和図書館 844-7210
大宮西部図書館 664-4946	片柳図書館 682-1222	岩槻東部図書館 756-6665	南浦和図書館 862-8568
馬宮図書館 625-8831	与野図書館 853-7816	桜図書館 858-9090	

事務局：中央図書館 浦和区東高砂町11-1 TEL 048-871-2100

★★編集後記★★ 前頁でご紹介した『ほくからみると』の色鮮やかさは、編集部一同、思わず声を上げたほど。素晴らしい絵本は優れた印刷技術にも支えられています。

次回発行予定：3月15日(年3回発行)



もっと身近に、
もっとしあわせに

